

飛べ！ドローン

年度トール班
ジャーナリスト
5年1ク
令和5年
第1期

レーザーで地形計測 富岡町「株式会社ふたば」

福島県双葉郡富岡町の「株式会社ふたば」はドローンによる測量・設計を通して震災後の町づくりに携わっている。町の復興・防災対策など今まで培った技術や経験を広く海外にも広める取り組みも行っている。富岡町の会社を訪ね会社の理念や、震災からのまちづくりの取り組みについて営業企画室の岸本智さんをはじめ会社の人たちに話を聞いた。(令和5年8月3日)

富岡の未来VR

「株式会社ふたば」は、ドローンが計測したデータをもち、未来のまちづくりに貢献している。ドローンが計測したデータをもち、未来のまちづくりに貢献している。ドローンが計測したデータをもち、未来のまちづくりに貢献している。



レーザーを搭載したドローン。まちづくりに貢献している。

データを集め、鳥の目線からの計測ができる。計測は、写真計測とレーザー計測の二つある。写真計測では、複数の周

計測だと光線が木の間にすり抜け、地面まで到達した反射波を計測することで、木々が写らない地面のデータを計測できる。活用の例として「農地」の「のり面・斜面」「微小差分(小さな地形の変化)」「河川・堤防」「森林情報」「砂防」などが挙げられる。これらの技術を使って、富岡町の復興に役立てている。

一万六千の思いこめて「富岡ワイン」に挑戦

この会社では、ワインを核とした新たなまちづくりをめざして、業務を通して「一般社団法人とおおかワインドメーヌ」を支援している。ワインは、年が経つと



ブドウの実はまだ青い

熟成してよりおいしくなる。同じように、これからも富岡町が発展するよう、という思いがこめられている。現在は一万本を栽培しており、さらに六千本の増やそうと計画している。「一万六千」とは、震災前の富岡町の人口だ。そこには、避難している人も含めて町民一人一人の思いを大切にしたいという思いがある。



私たちが案内してくれた岸本智さん

前列左から本田悠晴(白江小5年) 清水萌結(富田東小6年) 堀田明里(福島大学附属小5年)、後列左から二瓶淳(郡山東高2年) 引地春陽(橘小5年) 鈴木涼太(富田中1年)

私たちが 作りました。



地域の人達のために

地域デザイン事業部の穂積香奈さんは「『株式会社ふたば』は、富岡町にある会社として、震災前に地域の人達によくしてくれてもらった。そのため、地域に恩返しをするために、富岡町の復旧・復興に携わっています」と話した。富岡町は原子力発電所事故の影響により、他の町村よりも避難指示解除が遅れた。また、町内でもいまだに帰還困難区域があるなど、町内外さらには町内でも復旧・復興に差がある。避難指示解除まで時間を要し、避難先での生活が確立された

伝承館を見学して

東日本大震災について、学校では触れない被害の様子を詳しく学んだ。様々な展示物の中に、小学校で使われていた鍵盤ハーモニカがあった。鍵盤ハーモニカは時を超え鍵盤がとれてしまった。壊れながらも、またで生きたまま心をもって、今はもういなくなってしまった持ち主を探して、さまざまに続けているように僕には思えた。(本田悠晴) 8月3日、僕たちは「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学した。印象に残ったのは、津波は象に残ったのは、津波は秒速10メートル以上の速さだということだ。東日本大震災の時の津波では、多くの人々が津波の速さに驚き、逃げ遅れて亡くなってしまったり、行方不明になってしまった。地震が起きた時は、津波の被害に遭わないように、少しでも早く高い場所に避難したい。僕は、きちんと備えていない状態で災害が起きると大変であることが分かった。日頃から急な災害に備えておくことが大切だと改めて感じた。(鈴木涼太)